

私は今回、講義『エンドオブライフケア』を受けました。

<講師紹介>

群馬大学 医学部 看護学科 教授
日本エンドオブライフケア学会 第6回 学術集会 会長

内田 陽子 先生

<「ありがとう」の言葉>

人は死ぬ前に、お世話になった人たちに何を言って死ぬのでしょうか。

52歳で前立腺がんがんで亡くなった、1500人もの患者を看取った医師は、こう言いました。

「最後は感謝の言葉を送ること」

それは、亡くなる人も、それを看取る人も、共通です。

「ありがとう」の言葉は、大切な人を失って悲しい家族を、充実した気持ちにさせるのだそうです。

しかし、中には急に亡くなり、お別れの言葉を言えない人もいます。「ありがとう」「さようなら」「おつかれさまでした」

その言葉と言える 聞けることは、とても幸せなことなのです。

感想

私は今まで生きてきた中で、誰か大切な人の死に直面したことはないけれど、これから生きていく中で身近な人の死は必然とも言えるので、その時がきたら、必ず感謝とお別れの言葉を言えるようにしたいです。

先生の考える **看護師** とは？

① **人の命を守る** だけではなく、

② **最後を看取る** 仕事。

看護師はずっと患者のそばにいるから



<人生の統合>

「人生の統合」とは、それまでの人生の中でさまざまな苦難をすべて許すことです。人は、さまざまな経験を通して自分とは何かを見つけていきます。例えば「定年退職をしたら、その残された時間は人生のまとめの時期といえます。人生の経験には、うれしいことや楽しいことと同じだけ、悲しいことや辛いことがあるのは必然です。それらを許し、どのような心情で最後を迎えるかが、「大切だ」と思います。

感想

一定の年齢に達したら仕事を退職する(=定年退職)の制度があるのは、身体的な面だけではなく、人生のまとめをするという精神的な面での理由も存在すると考えた。☺️ <心の余裕は大切よ>

<ある鍛冶屋のお話>

アルツハイマー型認知症の80歳後半の鍛冶屋経営者が、「私は鍛冶町の鍛冶屋」と、生活の中で合計38回、繰り返しました。☺️
☺️「今はもの忘れもひどいけれど、昔は一人前の鍛冶屋だった。だから、馬鹿にしないでほしい」という気持ちが込められているのではないのでしょうか。うまく口で説明できなくても、患者の真意にしっかり気付いてあげることが大切です。

感想

私にとって看護師の仕事は、①の印象だけがありました。しかし、入院する人の全員がケガなどの理由ではないことに気づき、②についても糸内得しました。生きている以上老化という現象は逃れることができないので、そういう人たちとどう接するかについても、考える必要があると思いました。

★ 看護師に求められること ★

- 空気を読み、患者の言葉の裏の真意に気づくこと
たとえうまく言えなくても、その言葉にはちゃんと患者の意思があり、看護師はそれをしっかりとくみとってあげることが大切です。
- 患者の願いをできるだけ叶えてあげること
人生の最期を迎えようとしている人の中には、最後は住み慣れた自宅で、家族と過ごしたいという人も多くいます。その願いを「不可能」と切り捨てるのではなく、できるだけ叶えるために本人や家族と相談して、何かactionを起こすことが大切です。
- 患者やその家族の年齢、環境に応じて対応を変えること

感想

患者とその家族の心を支え、充実した気持ちにさせられる看護師になりたいです。

- 将来どんな看護師になるべきか知ることができた。
- 看護師として大事にしている心構えを聞くことができた。
- 先生の話が分かりやすく、考えさせられる内容だった。
- 亡くなる時に感謝をすべきなんだということがわかりました。
- 看護師になろうと思っていましたが、これまで自分が知っていたことは看護師としての仕事の一部分だとわかった。
- 「死」ということについてなんとなくネガティブなイメージを持っていたけど、ポジティブに捉えることも出来るのだと知った。
- 私は患者さんを少しでも明るい気持ちにできる看護師になりたいと思うので、「患者さんの望みをできるだけかなえる」ということは看護師として働く上で大切だと思った。
- 看護師は医者の手助けをするだけでなく医者よりも患者さんに近い存在なので心の面で寄り添えるような看護師になりたいと思いました。